

## 2018

1. 吉田和生, 渡邊衡一郎. 【認知症に対する薬物治療の今、そして今後】 認知症患者に対する抗精神病薬投与の是非. 2018; 21: 51-58.
2. 高須正太郎, 竹内啓善, 三村將. ポリファーマシーの問題点と解決策: うつ病患者・認知機能低下症例への対応. カレントセラピー. 2018; 36: 44-49.

## 2017

1. 橋本 正弘, 藤田 卓仙, 岸本泰士郎. 人工知能・機械学習を用いた精神科診療の可能性. 精神科, 2017; 30: 257-262.
2. 多田光宏, 齋藤篤之, 仁王進太郎. 双極Ⅱ型障害における診断の実際. 臨床精神医学. 2017; 46: 253-58.
3. 内田貴仁. アセナピンの臨床-有効性・忍容性. 精神科. 2017; 30: 62-67.
4. 内田裕之. 統合失調症治療に必要なドパミン D2 受容体の遮断の程度と質. 日本神経精神薬理学雑誌. 2017; 37: 127-131.
5. 内田裕之. 向精神薬の新しい国際的分類法 -Neuroscience-based Nomenclature (NbN)-. 精神科治療学. 2017; 32: 1391-1394.
6. 齋藤篤之, 多田光宏, 仁王進太郎. 双極性障害の認知症発症リスク. 老年精神医学雑誌. 2018; 29: 29-34.
7. 多田光宏, 齋藤篤之, 仁王進太郎. 急速交代型双極性障害の薬物療法. 精神科治療学. 2017; 32: 1179-84.
8. 齋藤篤之, 多田光宏, 仁王進太郎. 双極性障害の食事療法. 精神科. 2017; 30: 312-17.
9. 多田光宏, 齋藤篤之, 仁王進太郎. 双極Ⅱ型障害における診断の実際. 臨床精神医学. 2017; 46: 253-58.
10. 岸本泰士郎, リョウ・コクケイ, 工藤弘毅, 吉村道孝, 田澤雄基, 吉田和生. 情報通信技術や機械学習を活用した精神疾患重症度評価への取り組み. 情報管理. 2017; 60: 574-582.
11. 岸本泰士郎, 吉田和生. 精神科遠隔医療の展望と課題. 医療情報学. 2017; 37: 268-70.
12. 鈴木 健文. 持効性抗精神病薬治療の課題と今後の展望. 臨床精神薬理. 2017; 20: 1227-1232.
13. 竹内啓善. LAI による少量維持治療. 臨床精神薬理. 2017; 20: 1271-1278.
14. 渡邊亮, 竹内啓善. 抗精神病薬の副作用チェック. 精神科. 2017; 31: 430-436.
15. 菊地俊暁. 心因性疾患診療における精神神経科との接点. ENTONI. 2017; 213: 25-30.
16. 菊地 俊暁. うつ病の fMRI. 日本精神科病院協会雑誌. 2017; 36: 1189-1194.

17. 菊地俊暁. 抗うつ薬の副作用チェック. 精神科. 2017; 31: 437-442.
18. 菊地俊暁. 認知症の認知行動療法: 認知療法研究. 2017; 10: 171-180. (共同執筆)
19. 菊地俊暁. 認知行動療法の質を客観的に評価するためには. 精神療法. 2017; 増刊 4号: 59-63.
20. 菊地俊暁. 認知行動療法における治療の質の管理—さらなる普及とクオリティコントロールのために—. 精神医学. 2017; 59: 405-412.
21. 菊地 俊暁. 抗うつ薬の効果や副作用を当事者がどのように認識しているか. 臨床精神薬理. 20: 291-298.

## 2016

1. 内田裕之, 山脇成人. 向精神薬の新しい命名法 (Neuroscience-based Nomenclature). 日本神経精神薬理学雑誌, 2016; 36: 69-71.
2. 岸本 泰士郎. 臨床研究デザインの限界に注目しながら持効性注射剤 (LAI) の効果について検証する—LAI 賛成の立場から—, 精神神経学雑誌, 2016; 118: 607-614.
3. 垂水沙梨, 岸本泰士郎. 強迫性障害に対する遠隔医療: レビューと取り組みの紹介. 精神科治療学 2016; 31: 407-410.
4. 五十嵐桂, 藤井康男, 三澤史斉, 岸本泰士郎, 統合失調症患者における死亡率と突然死についての検討. 臨床精神薬理 2016; 19: 1003-1014.
5. 岸本泰士郎, 垂水沙梨, 中前貴, 三村將. 遠隔で行った強迫症に対する曝露反応妨害法: 3症例のケースシリーズ. 臨床精神医学 2016; 45: 1603 -1609.
6. 岸本泰士郎, 江口洋子, 飯干紀代子, 北沢桃子, 梁國經, 船木桂, 成本迅, 三村將. 高齢者に対するビデオ会議システムを用いた改訂長谷川式簡易知能評価スケールの信頼性試験. 日本遠隔医療学会雑誌 2016; 12: 145-148
7. 岸本泰士郎, 統合失調症のリカバリー達成に向けて薬物療法にできること, 臨床精神薬理. 2016; 19: 259-265.
8. 岸本 泰士郎, 統合失調症のリカバリーを見据えた薬物療法, 精神科臨床 Legato, 2016; 2: 24-28.
9. 岸本 泰士郎, 統合失調症の再発をより確実に予防するために—メタ解析に基づく検討—, 東京こころのクリニック, 2016; 16: 142-151.
10. 岸本 泰士郎, カルバマゼピン: 気分安定薬としての開発経緯と今日の役割, 精神科, 2016; 29: 207-212
11. 岸本 泰士郎, 疾患ステージから見た統合失調症薬物療法: 試験デザインの限界に関する考察を含めて, 臨床精神薬理, 2016; 19: 1411-1417.
12. 多田光宏, 齋藤篤之, 仁王進太郎. 双極性を有するうつ病の予後と長期薬物療法の問題. 臨床精神薬理. 2016; 19: 1607-14.

13. 齋藤篤之, 多田光宏, 仁王進太郎. Agomelatine のすべて. 臨床精神薬理. 2016; 19: 935-41.
14. 多田光宏, 齋藤篤之, 仁王進太郎. 抗うつ薬【多剤併用を最適化する基礎知識】. 月刊薬事. 2016;58: 1907-1911.
15. 仁王進太郎. 双極性障害と長期的視点. 臨床精神薬理. 2016; 19: 267-74.
16. 仁王進太郎. 双極性障害は過剰診断されているか. 臨床精神医学 2016; 45: 63-69.
17. 野村健介. 特集 小児日常診療でその薬を使う時・使うべきでない時 IV 神経 注意欠如・多動症 (AD/HD) とメチルフェニデート. 小児科. 2016; 57: 1620-1621.
18. 野村健介. 特集 小児日常診療でその薬を使う時・使うべきでない時 IV 神経 注意欠如・多動症 (AD/HD) とアトモキセチン. 小児科 57(13):1622-1623, 2016.
19. 野村健介. 改訂版 精神科・わたしの診療手順 第2章 神経発達症群 知的能力障害(中等度・重度)小児期以降も含む. 臨床精神医学. 2016; 45 増刊号: 60-62.
20. 藤井和人. 【今あらためて注目されている依存症について】ベンゾジアゼピン薬依存. 精神科. 2016; 29: 445-450.
21. 水野裕也. 統合失調症におけるレジリエンス: その概念と臨床的意義. 精神科治療学. 2016; 31 増刊号: 20-23.
22. 上野文彦. うつ薬の適正使用 反応見極めのタイミング. 精神科臨床 Legato. 2016; 2: 82-86.
23. 上野文彦. 抗うつ薬の計画的増量の実際. Depression Strategy. 2016; 6: 12-15.
24. 上野文彦, 樋口進. 振戦せん妄患者の安全管理. 精神科治療学. 2016; 31: 1441-1447.
25. 上野文彦, 木村充. アルコール依存症の疫学・転帰. 精神科臨床サービス. 2016; 16: 460-465.

## 2015

1. 仁王進太郎. 双極性うつ病に抗うつ薬使用はあるのか? 臨床精神薬理
2. 2015;18(3):257-63.
3. 仁王進太郎. 私は DSM-5 の双極性障害をこう見る. 精神科治療学, 2015; 30(3):423-26.
4. 竹内啓善. カナダ・トロントでの留学. 臨床精神医学, 2015; 44: 135-138.
5. 内田裕之. デポ剤とドパミン過感受性. 精神科治療学, 2015; 30: 899-903.
6. 滝上紘之, 八木剛平. 多職種からみた精神医学史 薬物療法の歴史から見てきたもの. 精神医学史研究, 2015; 19: 81-85.
7. 竹内啓善. 統合失調症維持期における薬物療法. 精神科, 2015; 27: 99-104.
8. 竹内啓善. 統合失調症における至適な抗精神病薬の用量と投与間隔を求めて. 精神科

経学雑誌, 2015; 117: 562-7.

9. 竹内啓善. 抗精神病薬の用量と認知機能. 臨床精神薬理, 2015; 18: 1549-1558.
10. 平野 仁一. 免疫と精神神経疾患 うつ病. 精神科, 2015; 27: 234-240.
11. 仁王進太郎. 双極性障害と長期的視点. 臨床精神薬理 2016; 19: 267-274.
12. 仁王進太郎. 双極性障害は過剰診断されているか. 臨床精神医学 2016; 45: 63-69.
13. 齋藤篤之, 仁王進太郎. 【失敗から学ぶ精神科臨床】気分障害. 精神科. 2015; 27: 400-404.
14. 仁王進太郎. 双極性障害の疾患概念と薬物療法:DSM-5 を通して. 臨床精神薬理 2015; 18: 1417-1423.
15. 仁王進太郎. 双極性障害と残遺症状. 精神科治療学 2015; 30: 731-38.
16. 仁王進太郎. 私は DSM-5 の双極性障害をこう見る. 精神科治療学 2015; 30: 423-26.
17. 仁王進太郎. 双極性うつ病への抗うつ薬使用はあるのか?. 臨床精神薬理 2015; 18: 257-63.
18. 仁王進太郎. 双極性障害の疾患概念と薬物療法 : DSM-5 を通して. 臨床精神薬理. 2015; 18: 1417-23.
19. 仁王進太郎. 双極性障害と残遺症状. 精神科治療学. 2015; 30: 731-38.

## 2014

1. 内田裕之. 統合失調症の維持期治療におけるデボ剤の用量設定を取り巻く課題. 臨床精神薬理, 2014; 17: 307-312.
2. 谷英明,内田裕之,八木剛平. レジリエンスをふまえた薬物療法. こころの科学, 2014;178: 16-21.
3. 岸本泰士郎. 統合失調症と身体の健康 骨粗鬆症・骨折. 統合失調症, 2014; 7: 85-90.
4. 岸本泰士郎. 身体合併症と精神科薬物療法:抗精神病薬を中心とした選択的レビュー.臨床精神医学, 2014; 43(3):349-355.
5. 岸本泰士郎. 特効性抗精神病薬注射剤(LAI)と経口抗精神病薬の再発予防効果を比較したメタ解析. 臨床精神薬理, 2014; 17(3):337-343.
6. 仁王進太郎. 双極性障害の長期予後. 臨床精神医学, 2014; 43(10):1433-38.
7. 仁王進太郎. 気分障害への抗精神病薬使用 : 気分安定薬と治療抵抗性うつ病の観点から. 臨床精神薬理, 2014; 17(10):1383-93.
8. 仁王進太郎. 双極性障害診断の課題. アディクションと家族, 2014; 29(4):313-19.
9. 仁王進太郎. 双極性障害の認知障害と欠損症候群. Depression Frontier, 2014;12(1):52-60.

10. 野村健介. 特集 統合失調症を持つ高齢者への医療と生活支援 第5章 生活に困難を抱える人たちの高齢化 超高齢社会を生きる発達障害をもつ人々—社会の担い手の一員として— 精神科臨床サービス. 2014; 14: 102-106.
11. 野村健介. 成人期 ADHD の薬物療法: その課題と展望 自閉症スペクトラム障害に併存する AD/HD にはいかに対応するか 臨床精神薬理. 2014; 17: 1257-1264.
12. 竹内啓善. カナダ. 精神科, 2014; 25: 162-6.
13. 藤井和人. 睡眠薬の使われ方と中断方法 -Ramelteon-. 精神科治療学, 2014; 29(11):1431-1434.
14. 櫻井準, 谷英明. 多剤併用から単剤への切り替え方. 精神科, 2014; 25(5):505-507.
15. 吉田和生, 三村將. SSRI, SNRI を中心とした新規抗うつ薬の選び方と上手な使い方. 臨床と研究, 2014; 91(3): 55-60.
16. 吉田和生. 睡眠薬の使われ方と中断方法 -オレキシン受容体拮抗薬について-. 精神科治療学, 2014; 29(11): 1435-1437.

## 2013

1. 松田康子, 齋藤百枝美, 澤田法英, 今坂康志. リスペリドン持効性注射剤に対する統合失調症患者の主観的評価. 臨床精神薬理, 2013; 16(7):1021-1029.
2. 澤田法英. 自ら'うつ'であると主張する患者にどう対応すべきか—新型うつ病、発達障害、双極性障害のうつ状態への対処方針—. 臨床精神医学, 2013; 42(2):235-242.
3. 岸本泰士郎. 向精神薬の併用療法: 海外における実態や予測因子に関する選択的レビュー (Psychotropic Medication Polypharmacy: A Selective Review of the World Trend and Predictors). 臨床精神医学, 2013; 42(2): 159-167.
4. 鈴木健文. 治療抵抗性統合失調症および治療反応を定義する. 臨床精神薬理, 2013;16(4):475-480.
5. 吉田和生, 渡邊衡一郎. 新規抗うつ薬の有効性と使い分けに関するエビデンス. 医学のあゆみ. 2013; 244(5): 365-371.
6. 仁王進太郎. 展望 双極性障害概念のこれまでとこれから. 精神医学. 2013; 55(1): 7-19.
7. 仁王進太郎. 双極性障害と認知障害, 機能障害, そして認知症. 臨床精神医学 2013;42(12):1481-8.
8. 仁王進太郎. 【双極性障害の精緻な薬物療法を求めて】 世界の双極性障害薬物療法ガイドラインとその限界. 臨床精神薬理. 2013; 16(10): 1433-9.
9. 仁王進太郎. 双極性障害概念の変遷と DSM-5. Depression Frontier. 2013; 11(2):59-67.
10. 佐藤美納子, 仁王進太郎, 渡邊衡一郎. 【Bipolar Depression の診断と治療〜最近の話題〜】 双極性うつ病に抗うつ薬を使うべきか. Depression Frontier. 2013; 11(1):23-30.
11. 佐藤美納子, 仁王進太郎. 【双極性障害を合併した不安障害をどう治療するか】 薬物療法をどうするか. 精神科. 2013; 22(6): 605-9.

12. 猪飼 紗恵子, 藤井 康男, 谷 英明. Clozapine 使用中に便秘と腹部膨満を生じ、消化管穿孔を呈した 2 例. 臨床精神薬. 2013; 16(5): 735-741.
13. 猪飼 紗恵子. 【統合失調症患者の死亡リスクと薬物治療】 統合失調症患者における疼痛感受性低下. 臨床精神薬理. 16(8):1151-1157.
14. 谷 英明, 藤井 康男. 【増強療法の原理と有用性を再考する】 統合失調症治療における抗うつ薬併用のリスクとベネフィット: 臨床精神薬理. 16(1):11-23.
15. 谷 英明, 藤井 康男. 【増強療法の原理と有用性を再考する】 統合失調症治療におけるベンゾジアゼピン併用のリスクとベネフィット: 臨床精神薬理.16(1):25-34. 2012
16. 澤田法英. 不定愁訴に対する薬物療法. 臨床精神医学. 2012; 41(3): 301-8.
17. 櫻井準, 渡邊衡一郎. 耳鼻咽喉科領域における抗うつ薬の使い方. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 2012; 84: 193-7.
18. 櫻井準, 中川敦夫. 薬は中止できるのか? (抗精神病薬, 抗うつ薬, 抗不安薬). 精神科臨床サービス. 2012; 12: 115-6.
19. 渡邊衡一郎, 澤田法英. 患者とディシジョンメイキングを行うに際し必要な評価とは -Shared Decision Making はどこまで臨床応用可能か. 臨床精神薬理. 2012; 15(2):161-9.
20. 新福正機, 小泉真澄. パリペリドン徐放錠の処方調査および主治医へのアンケート調査. 医薬ジャーナル 別刷. 2012; 48 (7) : 3-9.
21. 谷英明, 藤井康男. 統合失調症治療における抗精神病薬併用処方のリスクとベネフィット. 精神科治療学. 2012; 27(1):3-14.
22. 坪井貴嗣. 日本における精神疾患の治療薬の現状と展望. 日中医学. 2012; 27(2):18-22.
23. 澤田法英, 渡邊衡一郎. 感情障害治療における Shared Decision Making の実際と判断能力. 臨床精神薬理. 2012; 15(11): 1777-1784.
24. 菊地俊暁, 渡邊衡一郎. うつ病の再発予防にはどんな対策を行えばよいのか, PharmaMedica(0289-5803). 2012; 30(3) :35-38.
25. 田 亮介. うつ病に対する非薬物療法の有用性:各治療法と薬物療法の効果の比較 臨床場面でプラセボ効果をいかに生かすか. 臨床精神薬理. 2012; 15(12): 1945-1951.
26. 田 亮介. 精神神経科領域における漢方薬の使い方 漢方薬の副作用 月刊精神科. 2012;20(5): 489-492.
27. 吉田和生, 渡邊衡一郎. 抗うつ薬の分類から考えるミルタザピンの位置づけ. ミルタザピンのすべて. 先端医学社. 2012; 54-59.
28. 山田和男, 田中輝明, 仁王進太郎, 渡部芳徳. 双極性障害の新たな治療選択 ラモトリギンをより安全に処方するために. Pharma Medica. 2012; 30(9): 153-7.

## 2011

1. 櫻井準, 渡邊衡一郎. 【うつ状態を理解する-うつ病だけではない!さまざまな疾患に付随する「うつ状態」を正しく診る】 うつ状態を呈する疾患の薬物療法. 治療. 2011;93(12):

2363-9.

2. 平野仁一, 渡邊衡一郎. 【気分障害 季節の変わり目に出現しやすいうつ病の診断と治療】治療薬解説 新規抗うつ薬の使い分け. カレントセラピー. 2011; 29(3): 240-6.
3. 平野仁一, 渡邊衡一郎. 【薬物と自殺関連事象、そしてその予防】 自殺と身体科治療薬. 臨床精神薬理. 2011; 14(12): 1961-6.
4. 富田真幸, 渡邊衡一郎. 【向精神薬 最新の動向】 うつ病・双極性障害 うつ病治療のガイドライン・アルゴリズム. 医学のあゆみ. 2011; 236(10): 903-9.
5. 富田真幸, 渡邊衡一郎. 【抗うつ薬】 [抗うつ薬と治療] 軽症うつ病と抗うつ薬. こころの科学. 2011; (158): 52-6.
6. 内田裕之. 【向精神薬 最新の動向】 統合失調症 統合失調症の維持期におけるより安全な抗精神病薬治療. 医学のあゆみ. 2011; 236(10): 956-9.
7. 渡邊衡一郎. 抗うつ薬の新しい使い分けの提案 鎮静系 vs. 非鎮静系. 臨床精神薬理. 2011; 14(1): 170-5.
8. 渡邊衡一郎. 治療ガイドラインから読み取れること、そしてその背景にあるもの. 臨床精神薬理. 2011; 14(6): 963-8.
9. 渡邊衡一郎. うつ病の治療ガイドライン・アルゴリズムにみる現在のうつ病治療における薬物療法の立ち位置. Depression Strategy. 2011; 1(2): 1-6.
10. 渡邊衡一郎. 【「うつ」の治療を考える-抗うつ薬を使うべきとき・避けるとき】 うつ状態の患者に抗うつ薬は万能か? 初診時に抗うつ薬を使うとき・避けるときは. 精神科. 2011; 19(5): 429-36.
11. 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎. 【症例から学ぶ 新しい薬を使いこなすには】 トピラマート てんかん以外での精神科領域を中心に. 精神科. 2011; 18(2): 159-68.
12. 坪井貴嗣, 仁王進太郎. 【薬物と自殺関連事象、そしてその予防】 抗てんかん薬と自殺関連事象. 臨床精神薬理. 2011; 14(12): 1943-9.
13. 坪井貴嗣. 【看護師として知っておきたい!漢方薬の知識】 症状・疾患別漢方薬ガイド うつとその周辺症状. 看護技術. 2011; 57(10): 892-4.
14. 中島振一郎, 渡邊衡一郎. 【双極性障害の新たな展開】 NIMH STEP-BD 研究が明らかにした双極性障害の事実と今後の課題. 臨床精神医学. 2011; 40(3): 309-16.
15. 竹内啓善, 内田裕之. 【第2世代抗精神病薬の副作用最小化をめざして】 第2世代抗精神病薬の減量・低用量治療の可能性. 臨床精神薬理. 2011; 14(11): 1777-84.
16. 竹内啓善. Aripiprazole のメタボリックな指標への影響. 臨床精神薬理. 2011; 14(4): 704-11.
17. 仁王進太郎. 【双極性障害における薬物療法の今日的課題】 双極性障害の長期予後. 臨床精神医学. 2011; 40(7): 899-906.
18. 吉田和生, 櫻井準, 水野裕也, 小出真哉, 小田代夏子, 新福正機, 高橋達一郎, 立野玄一郎, 谷英明, 堤千紗, 長井信弘, 野田祥子, 原亜沙子, 水島仁, 南澤淳美, 陸本栄作, 竹

内啓善, 渡邊衡一郎, 古茶大樹, 鹿島晴雄. 内因性うつ病と反応性うつ病で診療内容は異なるか 薬物療法、精神療法 精神科医 502 名を対象とした質問紙調査より. 精神神経学雑誌. 2011; (2011 特別): S-216.

19. 岸本泰士郎, 渡邊衡一郎. 【プロラクチンの生理・病理の新展開】 向精神薬とプロラクチン. HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY. 2011; 18(3): 313-8.
20. Hamann J, 渡邊衡一郎. 精神科での Shared Decision Making(SDM)の導入 ドイツにおける実践. 臨床精神薬理. 2011; 14(4): 678-87.
21. 野村健介. 精神科・わたしの診療手順 行動面の障害のある精神遅滞. 臨床精神医学. 2011; 40(増刊): 319 -322.

## 2010

1. 野村健介, 渡邊衡一郎. 【衝動性の生物学的基盤と精神薬理】 抗うつ薬と衝動性. 臨床精神薬理. 2010; 13(6): 1123-31.
2. 富田真幸, 渡邊衡一郎. 【診療ガイドライン盛り合わせ】 うつ病・うつ状態の診療スタンダード Up To Date. JIM: Journal of Integrated Medicine. 2010; 20(6): 432-8.
3. 富田真幸, 渡邊衡一郎. 【軽症うつと漢方】 軽症うつに対する運動療法. 漢方と最新治療. 2010; 19(3): 201-5.
4. 内田裕之, 鈴木健文, 竹内啓善, Arenovich T, C. M. 統合失調症の再発予防のための抗精神病薬治療における低用量と標準用量の比較 メタ解析. 日本臨床精神神経薬理学会・日本神経精神薬理学会合同年会プログラム・抄録集. 2010; 20 回・40 回: 100.
5. 渡邊衡一郎, 富田真幸. うつ病の治療ガイドライン・アルゴリズムに見る現在のうつ病治療における薬物療法の立ち位置、そしてわが国における実現可能性は? 臨床精神薬理. 2010; 13(12): 2227-35.
6. 渡邊衡一郎, 竹内啓善, 菊地俊暁. 【精神科医が薬を処方する前に考えるべきこと】 飲み心地を重視した統合失調症治療のすすめ. 精神科治療学. 2010; 25(3): 335-45.
7. 渡邊衡一郎. 【働く人のうつ病】 新規抗うつ薬と攻撃性との関係. 日本医師会雑誌. 2010; 138(11): 2289-91.
8. 渡邊衡一郎. うつ病治療におけるアドヒアランスと患者ニーズを意識した薬剤選択. PTM: 最新の疾患別治療マニュアル. 2010; 2010 年(6 月): np9-np10.
9. 渡邊衡一郎. 患者さんのリカバリーを目指した薬物療法の取り組み 統合失調症の新しいゴール設定 remission から recovery へ. 臨床精神薬理. 2010; 13(7): 1425-36.
10. 渡邊衡一郎. 最近のうつ病の病型と治療 変わりゆくうつ病の薬物療法の現状. 精神神経学雑誌. 2010; (2010 特別): S-153.
11. 渡邊衡一郎. 抗うつ薬による性機能障害. Current Insights in Neurological Science. 2010; 18(2): 6.

12. 渡邊衡一郎. 【最近のうつ病の病型と治療】 変わりゆくうつ病の薬物療法. 精神神経学雑誌. 2010; 112(11): 1105-14.
13. 渡邊衡一郎. 【最新 うつ病のすべて】 治療【薬物治療・他】 抗うつ薬の安全性. 医学のあゆみ. 2010; 別冊(最新うつ病のすべて): 70-7.
14. 坪井貴嗣, 渡邊衡一郎. 【今日の精神科治療ガイドライン】 気分障害圏 双極性障害の薬物療法 ガイドラインを中心に. 精神科治療学. 2010; 25(増刊): 110-5.
15. 中島振一郎, 渡邊衡一郎. 【うつ病薬物療法 背景と問題点】 STAR\*D から見たうつ病薬物療法. Depression Frontier. 2010; 8(2): 9-12.
16. 中込和幸, 川寄弘詔, 渡邊衡一郎. うつ病患者の実態から考える治療戦略 急性期服薬アドヒアランスの向上を中心に. 臨床精神薬理. 2010; 13(10): 1997-2007.
17. 仁王進太郎, 渡邊衡一郎. 【気分障害に対する認知行動療法・補助的薬物療法】 気分障害に対する非定型抗精神病薬の補助的活用. 精神科. 2010; 16(6): 523-32.
18. 仁王進太郎. 【DSM-5 ドラフトをどう考えるか】 DSM-5 ドラフトにおける双極性障害診断. 精神科治療学. 2010; 25(8): 1011-8.
19. 新福正機, 小田代夏子, 波木一馬, 中島振一郎, 富田真幸, 渡邊衡一郎, 古茶大樹, 鹿島晴雄. レビー小体型認知症を疑い donepezil を使用中、斜頸が見られた 1 例. 精神神経学雑誌. 2010; 112(4): 417.
20. 小口江美子, 渡邊衡一郎, 菊地俊暁, 富田真幸, 高畑圭介, 石田浩之, 鹿島晴雄. 遷延性うつ病に対するウォーキングなど有酸素運動の効果について. スポーツ精神医学. 2010; 7: A20.
21. 岸本泰士郎. 【精神疾患患者と生活習慣病 Medical Psychiatry の重要性】 精神疾患と婦人科疾患. 成人病と生活習慣病. 2010; 40(10): 1167-70.

## 2009

1. 八木剛平, 田辺英, 渡邊衡一郎. 【改めてうつ病中核群を問う】 レジリアンスの視点からみた「典型的」うつ病 自殺の危機を乗り越えて立ち直る人々. 精神科治療学. 2009; 24(1): 69-73.
2. 内田裕之, 渡邊衡一郎. 【精神科薬物療法における基本的な疑問に答える】 抗精神病薬は単剤化しなければならないのか. 精神科. 2009; 14(6): 455-8.
3. 内田裕之, 竹内啓善. 【抗精神病薬治療に残された疑問点】 統合失調症の維持期における抗精神病薬の最小用量 その意義と課題. 臨床精神薬理. 2009; 12(10): 2151-6.
4. 渡邊衡一郎, 野村健介. 【新規抗うつ薬 mirtazapine とは】 新薬 mirtazapine の特徴他の抗うつ薬との比較を中心に. 臨床精神薬理. 2009; 12(8): 1721-35.
5. 渡邊衡一郎, 竹内啓善. 【新規抗精神病薬は精神科医療を変えたか】 非定型抗精神病薬の登場によってドパミン関連の副作用はどう変わったか? 臨床精神薬理. 2009; 12(11): 2311-23.

6. 渡邊衡一郎. 薬剤性高プロラクチン血症の与える影響. *Current Insights in Neurological Science*. 2009; 17(1): 5.
7. 渡邊衡一郎. 非定型抗精神病薬の使用について ペロスピロンの不安障害に対する効果セロトニン 1A 受容体に働くことの意義. *不安障害研究*. 2009; 1(1): 240-4.
8. 渡邊衡一郎. うつ病治療におけるアドヒアランス. *Current Insights in Neurological Science*. 2009; 17(3): 7.
9. 坪井貴嗣, 仁王進太郎, 渡邊衡一郎. 【新規抗てんかん薬 topiramate】 Topiramate のてんかん以外への応用. *臨床精神薬理*. 2009; 12(3): 479-89.
10. 坪井貴嗣. 治療に難渋した初発統合失調症患者にブロナンセリンが奏功した 1 例. *新薬と臨床*. 2009; 58(3): 469-73.
11. 坪井貴嗣. 治療に難渋した初発統合失調症患者にブロナンセリンが奏効した 1 例. *Pharma Medica*. 2009; 27(8): 92-4.
12. 竹内啓善. 第二世代抗精神病薬は陰性症状に本当に効果があるのか? *臨床精神薬理*. 2009; 12(10): 2083-102.
13. 仁王進太郎, 渡邊衡一郎. 薬の使い方シリーズ Quetiapine を使いこなす 統合失調症以外への可能性. *臨床精神薬理*. 2009; 12(4): 751-60.
14. 仁王進太郎, 竹内啓善, 澤田法英, 渡邊衡一郎. 【統合失調症薬物治療のエッセンス】 主な錐体外路症状の紹介、またその対応について. *Progress in Medicine*. 2009; 29(5): 1285-92.
15. 小口江美子, 渡邊衡一郎, 石田浩之, 菊池俊暁, 鹿島晴雄. 運動のメンタルヘルス効果の検討(その 1) 遷延性うつ病に対するウォーキングなど有酸素運動の効果について. *聖路加看護大学紀要*. 2009; (35): 61-7.
16. 岸本泰士郎. 【統合失調症薬物治療のエッセンス】 抗精神病薬併用療法の是非. *Progress in Medicine*. 2009; 29(5): 1309-15.

## 2008

1. 澤田法英, 渡邊衡一郎. 【精神科薬物治療とアドヒアランス】 統合失調症のアドヒアランス. *臨床精神薬理*. 2008; 11(9): 1633-44.
2. 野村健介, 渡邊衡一郎. 【抗うつ薬】 ミルタザピン. *最新精神医学*. 2008; 13(5): 451-5.
3. 富田真幸, 宮本聖也, 渡邊衡一郎. 統合失調症の合理的薬物療法を目指して. *精神神経学雑誌*. 2008; (2008 特別): S-352.
4. 八木剛平, 田亮介, 田辺英, 渡邊衡一郎. Resilience の視点からみたうつ病治療. *臨床精神薬理*. 2008; 11(12): 2195-203.
5. 八木剛平, 田辺英, 渡邊衡一郎. 統合失調症と抗精神病薬療法の 50 年. *臨床精神薬理*. 2008; 11(6): 1023-31.
6. 内田裕之, 渡邊衡一郎, 八木剛平. Saliency 仮説とドパミン. *臨床精神薬理*. 2008;

11(8): 1435-40.

7. 内田裕之. 【統合失調症の仮説】 陽性症状の神経化学的基盤に関する仮説 *Aberrant Salience* 仮説を中心に. *Schizophrenia Frontier*. 2008; 8(4): 252-6.
8. 渡邊衡一郎, 田亮介, 加藤元一郎. うつ病の回復過程におけるドーパミンの役割. *臨床薬理の進歩*. 2008; (29): 226-31.
9. 渡邊衡一郎, 田亮介, 加藤元一郎. 【新規抗うつ薬の課題】 諸外国のうつ病治療ガイドライン・アルゴリズムにおける新規抗うつ薬の位置づけ 諸外国でも SSRI、SNRI は第一選択薬なのか. *臨床精神薬理*. 2008; 11(10): 1849-59.
10. 渡邊衡一郎, 菊地俊暁. 抗うつ薬服用者を対象としたウェブ調査 2008 の結果に見る患者の気持ち. *臨床精神薬理*. 2008; 11(12): 2295-304.
11. 渡邊衡一郎, 岸本泰士郎, 竹内啓善. 【精神科薬物療法のここ 10 年の変化を検証する】 非定型抗精神病薬の登場によって統合失調症治療の副作用に対する考え方がどう変化したか? *臨床精神薬理*. 2008; 11(1): 29-41.
12. 渡邊衡一郎. 統合失調症の薬物療法 さらにアドヒアランスの向上に向けて我々が取り組めること. *臨床精神薬理*. 2008; 11(4): 749-59.
13. 渡邊衡一郎. 【いま remission を考える 統合失調症治療の新たなゴール】 統合失調症における remission の意義. *Schizophrenia Frontier*. 2008; 8(4): 268-73.
14. 田亮介, 八木剛平, 田辺英, 渡邊衡一郎. 【脆弱性とレジリエンス】 精神疾患におけるレジリエンス研究 PTSD からの発展. *臨床精神医学*. 2008; 37(4): 349-55.
15. 田亮介, 田辺英, 渡邊衡一郎. 脆弱性モデルからレジリアンスモデルへ 精神医学におけるレジリエンス概念の歴史. *精神神経学雑誌*. 2008; (2008 特別): S-238.
16. 田亮介, 田辺英, 渡邊衡一郎. 脆弱性モデルからレジリアンスモデルへ 精神医学におけるレジリアンス概念の歴史. *精神神経学雑誌*. 2008; 110(9): 757-63.
17. 仁王進太郎, 渡邊衡一郎. 【抗精神病薬】 ブロナンセリン(ロナセン). *最新精神医学*. 2008; 13(6): 583-90.
18. 仁王進太郎, 渡邊衡一郎. 【統合失調症の薬物療法 ブロナンセリンの up to date】 非定型抗精神病薬の使い分け ブロナンセリンと他剤との違いについて. *精神科*. 2008; 13(6): 483-90.
19. 小口芳世, 富田真幸, 渡邊衡一郎. 【臨床で遭遇する睡眠障害「不眠」と「過眠」】 臨床で役立つ「睡眠薬」Q&A 睡眠薬としてベンゾジアゼピン系が普及してきた理由を教えてください。また、薬剤師が観察すべき副作用について教えてください. *薬局*. 2008; 59(1): 76-80.
20. 志田博和, 渡邊衡一郎. 【アリピプラゾールの臨床】 統合失調症治療における remission と recovery. *精神科*. 2008; 13(5): 419-27.
21. 菊地俊暁, 渡邊衡一郎. 【精神科薬物療法と専門薬剤師の役割】 気分障害(大うつ病性障害、双極性障害)の治療について. *医薬ジャーナル*. 2008; 44(1): 87-95.

22. 岸本泰士郎. Perospirone のさらなる可能性 統合失調症に対する perospirone 1 回投与の経験 副作用やアドヒアランスに注目して. 臨床精神薬理. 2008; 11(11): 2145-7.
23. 角田健一. 当院でのリスペリドン(リスパダール)内用液分包品の使用経験 切り替え症例を中心に. 新薬と臨床. 2008; 57(5): 654-60.

## 2007

1. 澤田法英, 渡邊衡一郎. 【精神科リハビリテーション 最近の話題】 アドヒアランス 最近の動向. 精神科. 2007; 11(6): 433-40.
2. 澤田法英. 【精神科治療薬の副作用 予防・早期発見・治療ガイドライン】 症状の臓器ごとの副作用 中枢神経系 神経症状 錐体外路症状 遅発性ジスキネジア. 精神科治療学. 2007; 22(増刊): 61-5.
3. 鈴木健文. 精神科薬物療法に関する考察. 東京都病院薬剤師会雑誌. 2007; 56(1): 9-15.
4. 八木剛平, 田亮介, 渡邊衡一郎. 【生体防御機構と精神疾患】 精神疾患の回復論、生体防御論、そして” Resilience” 統合失調症と気分障害を中心に. 脳と精神の医学. 2007; 18(2): 135-42.
5. 内田裕之. 【必須!向精神薬の副作用と対策 安全な薬物療法のために】 臓器別副作用精神症状 知覚変容. 臨床精神医学. 2007; (2007 年増刊): 87-91.
6. 渡邊衡一郎, 三宅誕実, 岸本泰士郎, 辻野尚久, 仁王進太郎. 臨床現場における新規抗精神病薬の使い分け. Pharma Medica. 2007; 25(8): 85-92.
7. 渡邊衡一郎. 処方の教室 統合失調症 Key word. Rp レシピ. 2007; 6(2): 114-5.
8. 渡邊衡一郎. 処方の教室 統合失調症 ケーススタディ 抗精神病薬の減量および単剤化が望ましいと考えられた 37 歳女性患者. Rp レシピ. 2007; 6(2): 117-9.
9. 渡邊衡一郎. 処方の教室 統合失調症 ケーススタディ 初発の精神的エピソードより統合失調症を疑った 22 歳男性. Rp レシピ. 2007; 6(2): 120-1.
10. 渡邊衡一郎. 【新規抗精神病薬の使い分け】 Perospirone エビデンスの少ないこの SDA について検討する. 臨床精神薬理. 2007; 10(9): 1679-88.
11. 渡邊衡一郎. 【精神科治療薬の副作用 予防・早期発見・治療ガイドライン】 症状の臓器ごとの副作用 中枢神経系 精神症状 眠気・鎮静. 精神科治療学. 2007; 22(増刊): 9-13.
12. 渡邊衡一郎. うつ病の薬物療法最前線. 薬剤学: 生命とくすり. 2007; 67(Suppl.): 220-1.
13. 田亮介, 志田博和, 鈴木健文, 塚原美穂子, 渡邊衡一郎. 処方の教室 統合失調症 処方 の読み方・とらえ方 統合失調症. Rp レシピ. 2007; 6(2): 122-40.
14. 坪井貴嗣. 【精神科治療薬の副作用 予防・早期発見・治療ガイドライン】 症状の臓器ごとの副作用 中枢神経系 神経症状 錐体外路症状 Meige 症候群. 精神科治療学. 2007; 22(増刊): 44-5.

15. 坪井貴嗣. 【精神科治療薬の副作用 予防・早期発見・治療ガイドライン】 症状の臓器ごとの副作用 中枢神経系 神経症状 錐体外路症状 Pisa 症候群. 精神科治療学. 2007; 22(増刊): 46-7.
16. 中島振一郎, 根本隆洋, 渡邊衡一郎. 【統合失調症のコミュニケーション技能】 統合失調症のコミュニケーション技能の改善を目指して 薬物療法. Schizophrenia Frontier. 2007; 8(2): 103-8.
17. 竹内啓善. 【精神科治療薬の副作用 予防・早期発見・治療ガイドライン】 症状の臓器ごとの副作用 中枢神経系 精神症状 Supersensitivity psychosis. 精神科治療学. 2007; 22(増刊): 26-7.
18. 竹内啓善. 【精神科治療薬の副作用 予防・早期発見・治療ガイドライン】 症状の臓器ごとの副作用 中枢神経系 精神症状 Neuroleptic dysphoria. 精神科治療学. 2007; 22(増刊): 28-9.
19. 仁王進太郎, 渡邊衡一郎, 富田真幸, 田亮介, 鹿島晴雄. 欠陥状態に陥った双極性障害 5 例報告. 精神神経学雑誌. 2007; (2007 特別): S276.
20. 仁王進太郎, 渡邊衡一郎. 【非定型抗精神病薬と老年期精神疾患】 高齢者の幻覚妄想と非定型抗精神病薬. 老年精神医学雑誌. 2007; 18(7): 715-22.
21. 仁王進太郎. 【精神科治療薬の副作用 予防・早期発見・治療ガイドライン】 症状の臓器ごとの副作用 中枢神経系 神経症状 錐体外路症状 急性ジストニア. 精神科治療学. 2007; 22(増刊): 36-7.
22. 仁王進太郎. 【精神科治療薬の副作用 予防・早期発見・治療ガイドライン】 症状の臓器ごとの副作用 中枢神経系 神経症状 錐体外路症状 遅発性ジストニア. 精神科治療学. 2007; 22(増刊): 38-43.
23. 仁王進太郎. 【精神科治療薬の副作用 予防・早期発見・治療ガイドライン】 症状の臓器ごとの副作用 中枢神経系 神経症状 錐体外路症状 Rabbit 症候群. 精神科治療学. 2007; 22(増刊): 48-9.
24. 志田博和, 渡邊衡一郎. 【必須!向精神薬の副作用と対策 安全な薬物療法のために】 臓器別副作用 神経症状 アカシジア(急性、遅発性). 臨床精神医学. 2007; (2007 年増刊): 110-5.
25. 岸本泰士郎, 渡邊衡一郎, 島田直樹, 牧田和也, 鹿島晴雄. 精神科患者における骨密度調査 横断研究. 日本骨代謝学会学術集会プログラム抄録集. 2007; 25 回: 258.
26. 岸本泰士郎, 渡邊衡一郎. 【抗精神病薬と高プロラクチン血症】 高プロラクチン血症と骨密度. 精神科. 2007; 10(1): 57-62.
27. 岸本泰士郎. 【精神科治療薬の副作用 予防・早期発見・治療ガイドライン】 症状の臓器ごとの副作用 内分泌 高プロラクチン血症による長期的有害事象. 精神科治療学. 2007; 22(増刊): 116-9.
28. 岸本泰士郎. 【必須!向精神薬の副作用と対策 安全な薬物療法のために】 臓器別副作用

内分泌・代謝系の副作用 骨粗鬆症. 臨床精神医学. 2007; (2007 年増刊): 231-5.

29. 角田健一, 田辺英. 【内科医に必要な精神科の知識】 睡眠障害. 診断と治療. 2007; 95(12): 2140-8.

## 2006

1. 野村健介, 渡邊衡一郎. 臨床医による 新薬の評価 塩酸パロキセチン水和物. クリニカルプラクティス. 2006; 25(8): 764-6.
2. 富田真幸, 渡邊衡一郎. 【今日の精神科治療指針 2006】 薬物療法 抗不安薬. 臨床精神医学. 2006; (2006 年増刊): 354-67.
3. 内田裕之, 渡邊衡一郎, 八木剛平, 鹿島晴雄. うつ病治療における休養の効果の検討に関する診療録調査. 日本社会精神医学会雑誌. 2006; 15(1): 86.
4. 渡邊衡一郎, 田亮介. 薬物療法の限界から見えてくること 薬物療法の限界という視点から治療を概観する. 臨床精神薬理. 2006; 9(9): 1735-44.
5. 渡邊衡一郎. 如何にして多剤大量療法を脱却するか 抗精神病薬の精神生物学的意義 多剤大量療法について考える前に. 精神神経学雑誌. 2006; 108(6): 608-13.
6. 田亮介, 渡邊衡一郎, 鹿島晴雄. 薬剤師のための臨床講座 うつ病 Up-To-Date. Pharmavision. 2006; 10(8): 2-6.
7. 田亮介, 渡邊衡一郎. 【全科に必要な精神的ケア Q&A これでトラブル解決!】 精神科医に観察を依頼する時 精神科の薬剤にはどんなものがあるの? ナーシングケア Q&A. 2006; (9): 142-3.
8. 田亮介, 渡邊衡一郎. 【全科に必要な精神的ケア Q&A これでトラブル解決!】 精神科医に観察を依頼する時 精神科の薬剤の副作用にはどんなものがあるの? ナーシングケア Q&A. 2006; (9): 144-5.
9. 竹内啓善, 渡邊衡一郎. 【精神科臨床サービスの実践をどうまとめるか】 多くの専門職に実践を伝えるためのまとめ方 薬物療法の評価の仕方. 精神科臨床サービス. 2006; 6(2): 210-4.
10. 竹内啓善, 渡邊衡一郎. 【統合失調症治療の新しい可能性 アリピプラゾールの登場を迎えて】 Aripiprazole の薬理作用・臨床成績・ガイドラインとアルゴリズムにおける位置づけ. 脳 21. 2006; 9(4): 425-32.

## 2005

1. 菊地俊暁, 渡邊衡一郎. 【抗精神病薬の現在 作用機序・効果・副作用】 双極性障害に対する新規抗精神病薬の効果. 臨床精神薬理. 2006; 9(3): 415-22.
2. 澤田法英, 藤井康男. 【どうすすめる? 「非定型薬」時代の看護】 非定型薬をめぐる最近の動向. 精神科看護. 2005; 32(11): 35-9.
3. 澤田法英. 【多剤大量処方 of 減量・単純化】 多剤大量処方における治療者・患者の心

理とその対処方針. 臨床精神薬理. 2005; 8(2): 163-9.

4. 鈴木健文, 渡邊衡一郎, 八木剛平, 鹿島晴雄. 統合失調症患者における抗精神病薬多種併用療法は妥当か? 日本神経精神薬理学雑誌. 2005; 25(4): 159-68.
5. 野村健介, 渡邊衡一郎. 【うつ病の薬物療法を見直す】 新規抗うつ薬のリスクとベネフィット 副作用の理解とその対策を中心に. 臨床精神薬理. 2005; 8(11): 1687-95.
6. 内田裕之, 渡邊衡一郎. 【治療抵抗性,治療不耐性症例への対応】. 臨床精神薬理. 2005; 8(4): 425-30.
7. 渡邊衡一郎. 如何にして多剤大量療法を脱却するか 抗精神病薬の精神生物学的意義 多剤大量療法について考える前に. 精神神経学雑誌. 2005; (2005 特別): S232.
8. 中島振一郎, 渡邊衡一郎. 【非定型抗精神病薬の差別化と使用法】 新規非定型抗精神病薬の EBM. 脳 21. 2005; 8(3): 280-5.
9. 仁王進太郎, 渡邊衡一郎. 【症例と Q&A で学ぶ抗不安薬の使い方】 Q&A 抗不安薬使用の現状と問題点. 今月の治療. 2005; 13(8): 831-5.
10. 角田健一, 稲垣中. 【抗精神病薬の用量 その決め方と変え方】 統合失調症治療における haloperidol の至適用量. 臨床精神薬理. 2005; 8(8): 1185-90.

## 2004

1. 澤田法英, 藤井康男, 三澤史斉, 市江亮一, 宮田量治. Olanzapine 治療と入院期間減少. 臨床精神薬理. 2004; 7(10): 1629-35.
2. 澤田法英, 藤井康男. 【精神医療の新たな展開と治療技法】 新規抗精神病薬治療と再発・入院期間の変化. 臨床精神薬理. 2004; 7(9): 1453-62.
3. 内田裕之, 渡邊衡一郎, 八木剛平. 【精神障害の見方と治療姿勢 専門家のメッセージ】 薬物療法における精神障害の見方と治療姿勢. 精神科. 2004; 4(6): 359-63.
4. 渡邊衡一郎. 服薬アドヒアランスと治療予後. Schizophrenia Frontier. 2004; 5(4): 252-9.
5. 渡邊衡一郎. 統合失調症における非定型抗精神病薬の有効性 治療抵抗性統合失調症の治療について. 臨床精神薬理. 2004; 7(12): 1961-7.
6. 竹内啓善, 渡邊衡一郎. 抗精神病薬の多剤併用の功罪. 日本病院薬剤師会雑誌. 2004; 40(3): 245-9.
7. 菊地俊暁, 渡邊衡一郎, 竹内啓善, 冨田真幸, 冨田敦子, 内田裕之, 鈴木健文, 角田健一, 高野晴成, 田辺英, 稲垣中, 中谷真樹, 佐藤忠彦, 八木剛平, 鹿島晴雄. 抗うつ薬の新しい副作用自記式評価尺度. 精神神経学雑誌. 2004; 106(11): 1466.

## 2003

1. 鈴木健文, 内田裕之, 渡邊衡一郎, 八木剛平. 【多剤併用療法を考える 新世代薬剤の登場を受けて】 抗精神病薬多剤併用療法に対する減量・減薬の試み 対応ガイドライン.

精神科治療学. 2003; 18(8): 899-906.

2. 鈴木健文, 渡邊衡一郎, 八木剛平. 【よくある不適切な治療】 よくある不適切な処方. 精神科. 2003; 2(3): 264-71.
3. 富田真幸, 渡邊衡一郎, 菊地俊暁, 竹内啓善, 島内智子, 岸本泰士郎, 野村健介, 中川敦夫, 山澤涼子, 内田裕之, 鈴木健文, 野崎昭子, 富田敦子, 船山道隆, 高野晴成, 稲垣中, 岩下寛, 八木剛平, 鹿島晴雄. 精神分裂病の治療及びリハビリテーションのガイドライン作成とその実証的研究 非定型抗精神病薬の普及度と適応に関する研究. 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費研究報告集. 2003; 平成 14 年度: 46.
4. 富田真幸, 渡邊衡一郎. 【新規抗精神病薬の臨床現場への浸透】 新規非定型抗精神病薬がわが国の統合失調症治療に与えた影響 処方実態調査の結果を中心に. 臨床精神薬理. 2003; 6(12): 1541-8.
5. 八木剛平, 稲垣中, 内田裕之, 渡邊衡一郎. 【治療抵抗性分裂病(統合失調症)への対処】 「治療抵抗性」概念の諸問題. Schizophrenia Frontier. 2003; 4(4): 215-9.
6. 内田裕之, 鈴木健文, 八木剛平, 鹿島晴雄. 抗精神病薬の減量に伴う知覚変容発作の変化. 精神神経学雑誌. 2003; 105(11): 1309.
7. 内田裕之, 渡邊衡一郎, 八木剛平. 治療抵抗性概念を軸とした clozapine の歴史的意義. 臨床精神薬理. 2003; 6(1): 3-9.
8. 内田裕之, 渡邊衡一郎, 八木剛平. 精神科薬物療法におけるエビデンスの意義と限界. 臨床精神薬理. 2003; 6(8): 983-9.
9. 内田裕之. 【これだけは知っておきたい エンパワメント 当事者が力を発揮するのをどう援助するか】 援助技術 統合失調症の薬物療法. 精神科臨床サービス. 2003; 3(4): 449-54.
10. 渡邊衡一郎, 水野雅文, 富田敦子, 小田健一, 小林靖, 渡邊義信, 藤田信明, 鹿島晴雄. 統合失調症患者における体重増加と糖尿病に対する意識調査 医師の認識との比較. 日本社会精神医学会雑誌. 2003; 12(1): 112.
11. 竹内啓善, 渡邊衡一郎. 【多剤併用への処方箋】 多剤併用療法はなぜ行われるか 抗精神病薬の併用を中心として. 臨床精神医学. 2003; 32(6): 621-7.
12. 岸本泰士郎, 上村秀樹. Quetiapine によって遅発性ジスキネジアが緩解したアルツハイマー型痴呆患者の 1 例. 臨床精神薬理. 2003; 6(1): 95-8.
13. 岸本泰士郎. 【新規抗精神病薬の臨床現場への浸透】 非定型抗精神病薬と高脂血症. 臨床精神薬理. 2003; 6(12): 1587-94.

## 2002

1. 鈴木健文, 渡邊衡一郎, 高野晴成, 角田健一, 内田裕之, 八木剛平, 鹿島晴男. 抗精神病薬の多種併用及び大量療法の有用性に関する研究. 精神薬療研究年報. 2002; (34): 84-92.

2. 富田真幸, 渡邊衡一郎, 八木剛平. 【今日の精神分裂病の治療】 特に最近の非定型抗精神病薬. 医薬ジャーナル. 2002; 38(3): 993-8.
3. 八木剛平, 渡邊衡一郎. 【これだけは知っておきたい 精神科薬物療法の上手な使い方】 精神科薬物療法の基礎知識. 精神科臨床サービス. 2002; 2(4): 414-21.
4. 内田裕之, 八木剛平. 【臨床医のための新薬の知識 2002】 薬事・食品衛生審議会 薬事分科会審議・報告品目 抗精神病薬 オランザピン(olanzapine) ジプレキサ錠 2.5・5・10mg. 臨床と薬物治療. 2002; 21(4): 314-5.
5. 内田裕之, 渡邊衡一郎. 米国ロチェスター大学における急性精神病に対する救急薬物療法事情. 精神科治療学. 2002; 17(3): 367-70.
6. 内田裕之. 【これが薬を減らす道】 医師からの情報発信 多剤併用大量療法の弊害,そして減量・単剤化の試みを解説します. 精神看護. 2002; 5(5): 27-33.
7. 渡邊衡一郎, 水野雅文, 三浦勇太, 八木剛平, 鹿島晴雄. 抗精神病薬の副作用に対する服用者の認識について. 日本社会精神医学会雑誌. 2002; 11(1): 131.
8. 渡邊衡一郎. QOL より良い治療へのチャレンジ 多剤大量投与例のスイッチング. 臨床精神薬理. 2002; 5(6): 781-8.
9. 中川敦夫, 渡邊衡一郎, 八木剛平. 【これだけは知っておきたい 診療・相談記録の書き方】 様々な治療法における診療・相談記録の書き方 薬物療法. 精神科臨床サービス. 2002; 2(2): 180-3.
10. 竹内啓善, 稲垣中, 渡邊衡一郎. 【非定型抗精神病薬の薬理学 定型抗精神病薬と比較して】 治療抵抗性分裂病に対する非定型抗精神病薬の有効性. 精神科. 2002; 1(3): 203-9.
- 岸本泰士郎, 渡邊衡一郎. 【定型抗精神病薬と非定型抗精神病薬の徹底比較】 錐体外
11. 路症状以外の副作用における定型抗精神病薬と非定型抗精神病薬の比較. 臨床精神薬理. 2002; 5(2): 185-96.
12. 岸本泰士郎, 渡邊衡一郎. 「最新」向精神薬情報 抗てんかん薬「クロバザム」. 最新精神医学. 2002; 7(6): 593-7.
13. 角田健一, 渡邊衡一郎, 八木剛平. 【最新の向精神薬の高齢者への応用】 新しい睡眠薬の高齢者への応用 ゾルピデムとクアゼパムを中心に. 老年精神医学雑誌. 2002; 13(3): 281-7.

## 2001

1. 鈴木健文, 高野晴成, 渡邊衡一郎, 八木剛平. 【多剤併用大量療法をどうするのか?】 抗精神病薬の多剤併用大量療法への対応ガイドライン. 臨床精神薬理. 2001; 4(10): 1423-30.
2. 富田真幸, 渡邊衡一郎, 八木剛平. 【精神科領域における新しい薬】 新しい抗精神病薬の開発の現状. 最新精神医学. 2001; 6(1): 9-16.
3. 八木剛平, 高野晴成, 渡邊衡一郎, 鈴木健文, 内田裕之, 田中謙二. 精神分裂病の慢性例

- に対する抗精神病薬の多種併用と大量投与の有用性に関する研究. 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費総括研究報告書 精神分裂病の病態,治療・リハビリテーションに関する研究. 2001; 平成 12 年度: 83-7.
4. 内田裕之, 高野晴成, 八木剛平. 【多剤併用大量療法をどうするのか?】 抗精神病薬の多剤併用大量療法の減量,単剤化の試み. 臨床精神薬理. 2001; 4(10): 1389-95.
  5. 渡邊衡一郎, 田辺英, 高野晴成, 八木剛平, 浅井昌弘. 抗精神病薬の多種併用と大量投与の有用性に関する研究. 精神薬療研究年報. 2001; (33): 129-37.
  6. 渡邊衡一郎, 水野雅文, 村上雅昭, 小田健一, 富田敦子, 渡邊義信, 鹿島晴雄, 八木剛平. 精神分裂病の服薬動向に対する服薬観と病識の影響. 日本社会精神医学会雑誌. 2001; 10(1): 121.
  7. 渡邊衡一郎, 水野雅文, 山下千代, 鹿島晴雄, 八木剛平, 浅井昌弘. 精神分裂病患者の薬物コンプライアンスに関する長期経過研究. 病院・地域精神医学. 2001; 44(3): 320.
  8. 渡邊衡一郎. 【新規非定型抗精神病薬の展望】 新規非定型抗精神病薬の展望. Schizophrenia Frontier. 2001; 2(4): 215-21.
  9. 中川敦夫, 渡邊衡一郎, 白波瀬丈一郎, 大野裕, 八木剛平, 鹿島晴雄. 一定入院期間内での目標設定入院がもたらしたものの統計的変化 短期入院システム導入前後の患者像の変化. 精神神経学雑誌. 2001; 103(12): 1085.

## 2000

1. 鈴木健文, 渡邊衡一郎, 八木剛平. 【精神疾患の治療】 精神疾患の治療薬 抗精神病薬. 医学と薬学. 2000; 44(5): 875-82.
2. 八木剛平, 田中謙二, 魚住成彦, 稲垣中, 渡邊衡一郎, 新谷太, 高野晴成, 内村英幸. 精神分裂病の慢性重症例に対する抗精神病薬療法と血中モノアミン代謝産物の変動. 臨床薬理. 2000; 31(1): 47-8.
3. 内田裕之, 濱田秀伯. 【老年期精神疾患の危険因子 とくに身体的老化との関連】 難聴と遅発性パラフレニア. 老年精神医学雑誌. 2000; 11(6): 615-9.
4. 渡邊衡一郎, 水野雅文, 三浦勇太, 山下千代, 根本隆洋, 向井敦子, 宮田量治, 鹿島晴雄, 八木剛平, 浅井昌弘. 精神分裂病者の服薬動向に影響する要因. 日本社会精神医学会雑誌. 2000; 9(1): 103.
5. 渡邊衡一郎, 高野晴成, 八木剛平. 治療薬誕生秘話 Levomepromazine. 臨床精神薬理. 2000; 3(5): 507-11.
6. 渡邊衡一郎. 服薬コンプライアンスに対する通院精神分裂病患者の服薬観と病識の影響. 慶應医学. 2000; 77(6): 309-17.
7. 田亮介, 渡邊衡一郎. 【精神科薬物療法における倫理とインフォームドコンセント】 抗精神病薬を処方する際のインフォームド・コンセント その特性と実践. 臨床精神薬理. 2000; 3(12): 1305-12.

8. 角田健一, 渡辺衡一郎. 【今日の精神科治療 2000】 精神科疾患の愁訴と治療 悪性症候群. 臨床精神医学. 2000; (2000 年増刊): 481-4.

#### 1999

1. 八木剛平, 渡辺衡一郎, 高野晴成, 田中謙二. 三世代の抗精神病薬による初発分裂病の治療経験. 日本神経精神薬理学雑誌. 1999; 19(6): 361.
2. 渡辺衡一郎, 八木剛平. 【定型抗精神病薬 vs 非定型抗精神病薬 臨床における検証】 非定型抗精神病薬による初発分裂病者への外来治療. 臨床精神薬理. 1999; 2(12): 1374-7.

#### 1998

1. 渡辺衡一郎, 水野雅文, 山下千代, 宮田量治, 三浦勇太, 小田健一, 村上雅昭, 鹿島晴雄, 八木剛平, 浅井昌弘. 退院精神分裂病者の服薬動向. 日本社会精神医学会雑誌. 1999; 8(1): 79.
2. 渡辺衡一郎, 他. 精神分裂病の再入院と服薬態度との関連. 日本社会精神医学会雑誌. 1998; 6(2): 236.
3. 渡辺衡一郎, 水野雅文, 村上雅昭, 三浦勇太, 片山信吾, 茶谷るみ子, 松田康子, 鹿島晴雄, 八木剛平, 浅井昌弘. 精神分裂病再入院群における服薬不全理由. 日本社会精神医学会雑誌. 1998; 7(1): 92.
4. 渡辺衡一郎, 吉野文浩, 中村誠, 百瀬知雄, 山下千代, 西園文, 浅井昌弘. 医師を特定しない精神科通院患者について. 東京精神医学会誌. 1998; 16(1): 103.

#### 1996

1. 渡辺衡一郎, 八木剛平. 内科治療薬による精神症状 抗潰瘍剤, 降圧剤, ステロイド剤ほか. 精神科治療学. 1996; 11(2): 141-6.